



## 園だより 12月

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

マタイによる福音書1章23節

今年は紅葉が美しい12月を迎えました。

コロナ禍の中ですが、様々な工夫しながら、子どもたちの思いを大切に過ごした11月の園生活となりました。

秋の実りに感謝し収穫感謝の礼拝を守り、自分たちで掘ったさつま芋とお野菜がいっぱいのスープを全園児で戴きました。お味はもちろん江東YMCA幼稚園年長組ブランドのお味噌仕立てです。毎年のように年長児がすべてを計画しました。「コロナだからみんなで食べるのは無理だよ」と各クラスにスープが用意されました。どうしたらいつものように神様の恵みに感謝してみんなで美味しいスープを楽しめるかなあ、みんなで考えれば今年ならではの仕様がちゃんと生まれてくるのです。そんな豊かなときに感謝せずにはられませんでした。

そして第三週からはアドヴェントの期間に入り、クリスマスを迎える備えのときとして園内は様変わりをしました。毎日アドヴェントクランツにあかりを灯し神様のお話を聴きます。その後、その日に知らせが届いた子の「光」をみんなで壁面に飾ります。毎日少しずつ「光」が増えていきます。各クラス全員に「光」が届き飾られたとき、イエス様のお誕生をお祝いする嬉しいクリスマスがやってきます。「光」一つひとつがアドヴェントカレンダーなのです。その「光」はいつ誰に届くのか、誰にも分かりません。届くその日を待ちます。大切な神様の御子イエスさまをこの世に「真の光」としてお与えくださるといふ、神様からのお約束を待ったユダヤの人々のように。「今日は誰に届くのかな」「今日届いているかも」「大好きな〇〇ちゃんに届いた、嬉しいね」「私には届く？」などなど、子どもたちの心は様々に動きます。どんな心模様が一人ひとりの心に広がっているのでしょうか。その色々を感じながら育まれる心持ち、大切に思います。そして、「待つ」ことで得られる豊かな心。毎年繰り返されるアドヴェントのこの時に神様から「待つ」ことの恵みを頂いているのです。さあ、今年度もその恵みを十分に頂いている子どもたち。どんなにか豊かな心でクリスマスを迎えることでしょうか。

どこか心落ち着かないままに過ぎてきた今年ですが、このアドヴェントのとき、変わらない恵みを与えられ、変わらない子どもたちの園生活が守られていることに改めて感謝しつつ、クリスマスの喜びを子どもたち、保護者の皆さまと共にお祝いできる12月を嬉しく思います。

園長 駿河 幸子

